

## 農業機械へのデザイン導入

農業機械の先進国はヨーロッパやアメリカであり、機能美も含め、外観も美しく、機械の形ですぐにどの会社の製品と分かるものが多いです。

こうした先進国の例にならって、当社らしさを出すために、現在の道総研工業試験場に相談し、ワーキンググループを立ち上げ、デザイン性を取り入れることにしました。

競合他社がある中で、必要最低限の機能を備え、当社らしさを出すことが重要です。

以前、農業機械の色は、赤と決められていました。規制がなく、当社はプロジェクトを組み、現在の黄緑色に変更していました。

ワーキンググループでは、印象を大きく左右する色の変更も検討しましたが、定着したブランドイメージを変えることにもなるので、まずは、色の変更はせずに、当時、製品に無秩序に貼られていたロゴマークのステッカーの改善に取り組みました。

農地の中で遠くから見ても識別可能で、当社らしさをアピールできるシンプルなロゴステッカーに変更しました。



開発部の皆様

ロゴステッカーの改善



改善前



改善後

## 外部デザイナー活用の難しさ

当社は、工業デザイン専門のデザイナーと製品開発に取り組んだことがあります。

企業は限られた開発費の中で、利益を出さなくてはなりません。そのためには、コストを抑えつつ、売れる製品開発が必要です。デザイナーは自由な発想で製品デザインを考えるので、製造現場で実際に作れるデザイン、採算が合うデザインとは限りません。設計者側とデザイナーとの考えるベクトルが少しずつ違ってしまい、提案されたデザイン活かして製品開発を行うことができませんでした。

デザイナーからは機械の角張った形をスタイリッシュにするデザインを提案してもらいましたが、鉄板で曲線を作ることが難しく、何度かデザインのやり直しにも対応してもらいました。最終的に提案されたデザインの一部を取り入れて製品化しましたが、外部のデザイナーとの製品開発の難しさがありました。

今後、外部デザイナーとともに仕事をする際は、ものづくりをする工場の設備などについて、事前に良く理解してもらうことが大切だと考えています。

## ロールベアラの改良



鉄製カバー

FRP製カバー

## デザイン性を取り入れた製品開発への挑戦

農業機械は、デザイン性を取り入れられるものばかりではありません。当社の製品では、ロールベアラには機械本体に大きなカバーが付いているので、デザイン性を取り入れやすいのではないかと考え、自社で開発を進めることにしました。営業部門からも要望があったカバーの部分に丸みを持たせたデザインにするため、鉄製から樹脂製のカバーに変更しました。

現在の形は、開発部の社員がデザインしたものです。当社には、デザインを専門に勉強してきた社員はいませんが、国内・海外の様々な製品を研究し、社内の様々な意見を取り入れながら、現在の形になりました。このデザインは、見た目だけでなく、メンテナンスのしやすさを兼ね備えており、設計者ならではのデザインになったのではないのでしょうか。

強度を持たせるためにFRPを使用していますが、採算の関係から海外で製造しており、なかなか仕様どおりの製品ができてくず、試行錯誤を繰り返しながらやっと完成したのを覚えています。中型タイプの開発から始め、現在は大型タイプにも展開し、ラインナップに統一性を持たせています。

販売に至るまで大変苦労しましたが、こだわりを持って作り上げたデザインは、ユーザーの皆様からも非常に好評をいただいています。

### 会社概要

【所在地】 千歳市上長都1061-2

【TEL】 0123-26-1122 【FAX】0123-24-6711

【事業内容】 農業機械、芝草管理機械、殺菌・脱臭機器などの設計・製造販売

【従業員数】 800名

【設立年】 2017年

【URL】 <https://www.ih.co.jp/iat/>